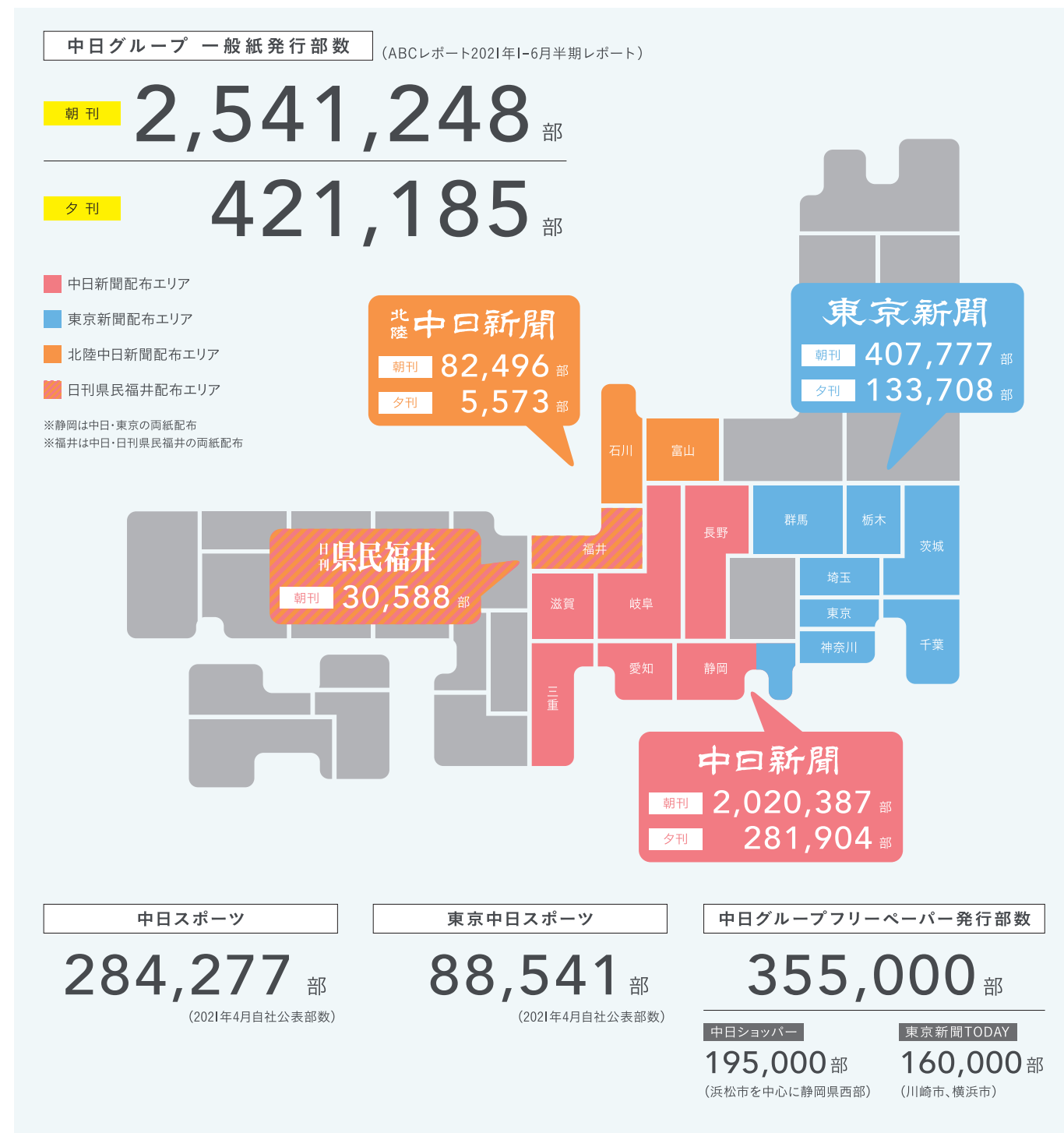




中日新聞社広告局					
名古屋本社	〒460-8511 名古屋市中区三の丸 1-6-1	TEL.052(221)0686	福井支社	〒910-0005 福井市大手 3-1-8	TEL.0776(28)8606
岐阜支社	〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通 1-12	TEL.058(266)4791	大阪営業支社	〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-43	TEL.06(6346)1115
東京本社	〒100-8505 東京都千代田区内幸町2-1-4	TEL.03(6910)2483	中日ショッパー	〒435-8557 浜松市東区薬新町45 中日新聞東海本社内	TEL.053(421)9115
北陸本社	〒920-8573 金沢市駅西本町 2-12-30	TEL.076(233)4640	東京新聞TODAY	〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-1-14 JTBC川崎共同ビル5F	TEL.044(245)5881
東海本社	〒435-8555 浜松市東区薬新町45	TEL.053(421)9118			

中日新聞社広告局ホームページ <https://adv.chunichi.co.jp/>



中日新聞
東京新聞

北陸中日新聞
日刊県民福井
中日スポーツ
東京中日スポーツ
中日こどもウィークリー
中日ショッパー
東京新聞TODAY

新たな100年に向けて ブランド価値を向上

Interview

Mitsuhiro Yoneya

米谷 光弘 氏 × 宗形 敦

スタンレー電気株式会社
理事 ブランド価値向上担当

Atsushi Munakata

中日新聞 東京本社 広告局
スポーツ部 部長

北米や中国の駐在を経験し約7年の取締役の後、理事としてブランド価値向上の仕事に携わる。



— 貴社は2020年12月に100周年を迎えられました。まずは100周年を迎えての思いをお聞かせください。

米谷 当社は、創業者の北野隆春が個人商店として設立した北野商会に端を発し、自動車用ランプを中心に事業を拡大してきました。高度経済成長期のマイカーの普及で事業を伸ばし、現在は自動車用ランプ市場で世界4位のシェアを占めています。ただ、BtoBビジネスが主であるため、スタンレーブランドの一般的な知名度は決して高くありません。創業から100年を超えた今こそ、当社のことをより多くの方に認知いただけるよう、「ブランド価値の向上」という新しいテーマに取り組んでいます。

— 100周年から1年半、新しいトピックとして、ブランド統一と新しい分野の製品開発に取り組まれ、これに関連して広告出稿をいただきました。まずはブランド統一についてご紹介ください。

米谷 当社は長い間「RAYBRIG(レイブリック)」のブランド名で自動車用の市販用品を販売してきました。おかげさまでRAYBRIGは多くのユーザー様に愛顧いただきましたが、近年は車が電子制御化されて個人レベルでのカスタマイズが難しくなってきた等の環境変化もあり、カー用品に対するニーズは少なくなっています。そこで、社名と同じ「スタンレー」のブランドに一本化することで、これまでの知見を結集させ、市販用品の事業もグローバルで展開することになったという経緯があります。社名がブランドになったことで対外的なブランド価値を高めるとともに、社内的にも従業員のモチ

ベーションアップにつながっています。

— 東京中日スポーツはモータースポーツの報道に力を入れているということもあり、ブランド統一に際して、広告という形でご協力できたことを嬉しく思います。貴社はRAYBRIGブランドでスーパーGTのチームクニミツをスポンサードされていました。ブランド統一に伴うマシンのカラー変更についても広告での周知を図りましたが、ファンの反響はいかがでしたか。

米谷 青基調だったRAYBRIGカラーから、シルバーベースにオレンジを配したスタンレーカラーへ変更しましたが、おかげさまでご好評をいただいています。RAYBRIGカラーは多くのファンに愛されていたので、当社としてもデザインの変更には非常に気を使いました。それだけに、ニューデザインがファンの皆様に受け入れてもらえてホッとしています。

— チームクニミツの監督でかつてはレーサーとしても活躍された高橋国光さんが今年3月に急逝されました。これを受けて、国光さんのヘルメットのデザインをマシンに追加されましたね。

米谷 今期はチームとして「国さんとともに戦う」という強い思いから、急きょ追加しました。また、このタイミングで「アリガトウ クニサン」という広告を出稿させていただき、チームの士気向上にも繋がっています。今期のスーパーGTは、前半戦を終えた現在、チーム・ドライバーランキングともに3位ですが、まだまだシリーズチャンピオン獲得のチャンスはあります。チーム一丸となってシリーズチャンピオンを獲得し、国光



東京中日スポーツ 2021年11月5日
ブランドを「STANLEY」へ統一したことを周知する広告。
マシンカラーが従来の青基調からシルバー&オレンジへ変更された。



東京中日スポーツ 2021年11月26日
空気除菌脱臭機「A&NUV(アルヌーヴ)」の広告。チームクニミツ限定モデルも販売された。

さんに良い報告ができるよう取り組んでいきます。

— もうひとつのトピック、新しい分野の製品開発は、紫外光を活用した除菌とお聞きしています。こちらに取り組まれた経緯についてご紹介ください。

米谷 当社は創業以来、「光」にこだわって事業を展開してきました。当社のグループビジョンでは「光に勝つ」というスピリットを掲げています。これまでは主に、目に見える「可視光」を扱ってきたのですが、近年では次の100年を見据えて、目に見えない「非可視光」に注目し開発を進めてきました。その成果の1つが、除菌効果の高い265nm波長の紫外線等を使用した「A&NUV(アルヌーヴ)」ブランドの商品です。未だ新型コロナウイルスの影響が続いていますので、当社は紫外線を用いた独自の商品によって衛生上のリスクを低減することで、安全安心な社会の実現に貢献したいと考えています。

— 光の可能性を感じますね。今後の展望についてはどのようにお考えですか。

米谷 光について100年間取り組んできた知見は、当社の大きな財産です。非可視光はセンシングに応用して自動運転制御に活かすことができます。また、除菌ビジネスを含め健康や美容といった分野に対する商品開発も進めています。マイカーニーズが減っていく中でも、光というテーマで世の中に新しい価値を提供していきたいと考えています。

— 最後に、新聞や新聞広告に対するご意見や期待などあ



STANLEYブランドの自動車市販用品
ブランド変更にあわせてパッケージを一新した製品を発売中



東京中日スポーツ 2022年5月27日
2022年3月に急逝した高橋国光さん愛用のヘルメットを、マシンのデザインに追加。
ファンからも好評を得た。

りましたらお聞かせください。

米谷 しっかり掘り下げた内容の記事を出せるのが、紙のメディアを持った新聞社の強みだと思います。一方で、デジタルには記事をアーカイブ化できるというメリットがあるので、例えば過去の記事からスーパーGTに関する記事を1年分取り出せる、といった機能があれば、利用したい読者がいるのではないのでしょうか。

— 参考にさせていただきます。光をテーマにした新しいイノベーションがありましたら、ぜひ取材させてください。本日はありがとうございました。



A&NUV製品のラインナップ(空気・表面の除菌)
新型コロナウイルス感染症の影響により、社会全体で除菌に対するニーズが高まったため、独自の紫外線技術を用いて開発。



CHUNICHI AREA ADVERTISING AWARD 2021

中日新聞 エリア広告賞 決定

6月10日、「2021中日新聞エリア広告賞」表彰式を名鉄グランドホテルにて開催しました。

30回目を迎えたこの賞は、2021年1月1日～2022年3月31日までの期間、中日新聞地方版の各版(市内・尾張・三河・岐阜・三重・静岡・滋賀・長野・福井)に掲載された5段以上の「企画広告」が対象。「暮らしに役立つ地域情報が得られる」、「社会性のあるテーマで提言性があり、地域文化の向上に役立つ」、「レイアウトが斬新で楽しさがある」の3点を選定基準とし、応募総作品数166点の中から、全エリアより大賞1点、各エリアより最優秀賞1点・優秀賞1点、全エリアより特別賞2点・奨励賞1点・功労賞2点の合計20点を選出しました。

「エリア広告大賞」は、中日アド企画による「一宮市制100周年特集」が受賞しました。この特集では、コロナ禍で記念事業が中止・縮小となる中、市民が中心となって進めた「市民チャレンジ事業」にフォーカスした企画を立案。多くの地元企業の協賛を得て尾張版にて全30段の掲載となり、市制100周年を盛り上げました。

なお、「2022中日新聞エリア広告賞」の募集も開始しています。選考対象は、2022年4月1日～2023年3月31日までに地方版に掲載された企画広告となります。多くのご応募をよろしくお願いいたします。

(名古屋本社 広告局ビジネス開発部)

エリア広告大賞

一宮市制100周年特集

尾張版 2021/9/17(金)

(株)中日アド企画



2021 中日新聞エリア広告賞入賞作品一覧

企画名		受賞広告会社
エリア広告大賞(全エリア対象)		
尾張	一宮市制100周年特集	㈱中日アド企画
市内の部		
最優秀賞	名古屋城金シャチ特別展覧企画	㈱中日NEXT
優秀賞	GW直前 春を愉しむ 企画	㈱日東通信
尾張の部		
最優秀賞	藤井聡太棋士特集	㈱中日NEXT
優秀賞	一宮商工会議所100周年特集	㈱中日総合サービス
三河の部		
最優秀賞	岡本兵松翁生誕200年記念	㈱サンアド
優秀賞	豊橋市SDGs特集	㈱中日アド企画 三河支社
岐阜の部		
最優秀賞	岐阜市役所新庁舎完成特集	㈱中日アド企画 岐阜支社
優秀賞	ぎふ初夏の健康増進特集	名岐広報㈱
三重の部		
最優秀賞	いなべうまいもん処企画	㈱神広エージェンシー
優秀賞	eスポーツ選手権2021 MIE	㈱中日アド企画 三重支社
静岡の部		
最優秀賞	浜松国際ピアノ・フェスティバル2021	㈱中日NEXT 浜松支社
優秀賞	新東名新磐田スマートIC開通特集	㈱中部日本広告社 浜松支社
滋賀・長野・福井の部		
最優秀賞	北陸新幹線福井・敦賀開業まであと2年特集	㈱福井中日広告
優秀賞	飯田お練りまつり特集	(有)中日アド信州
特別賞		
静岡	平屋住宅カタログプレゼント企画	㈱中日アド企画 東海支社
滋賀	祝 米原市役所新庁舎完成企画	㈱中日アド企画 滋賀営業所
奨励賞		
岐阜	SDGs岐阜推進プロジェクト企画	㈱中日アド企画 岐阜支社
功労賞		
岐阜	住宅企画(暮らしの情報)	名岐広報㈱
三重	townナビ	㈱アド三愛

[受賞広告会社コメント]

コロナ禍で記念事業が中止・縮小となる中、市民が中心となって進めた「市民チャレンジ事業」をフォーカスし、企画を立案しました。「人・企業・街が元気」をコンセプトに、多くの地元企業からご協賛いただき、一宮市制100周年を盛り上げられたと思います。

最優秀賞 功労賞

市内の部

名古屋城金シャチ特別展覧企画

2021/6/18(金)

(株)中日NEXT



岐阜の部

岐阜市役所新庁舎完成特集

2021/4/9(金)ほか(抜粋) (株)中日アド企画 岐阜支社



滋賀・長野・福井の部

北陸新幹線福井・敦賀開業まであと2年特集

福井版 2022/3/13(日)

(株)福井中日広告



尾張の部

藤井聡太棋士特集

2021/6/25(金)ほか(抜粋)

(株)中日NEXT



三重の部

いなべうまいもん処企画

2021/4/3(土)

(株)神広エージェンシー



三河の部

岡本兵松翁生誕200年記念

2021/6/5(土)

(株)サンアド



静岡の部

浜松国際ピアノ・フェスティバル2021

2021/10/15(金)

(株)中日NEXT 浜松支社



2021
中日新聞エリア広告賞
入賞作品集

ご希望の方に差し上げます。
下記にお問い合わせください。

中日新聞名古屋本社
広告局ビジネス開発部

TEL.052-221-0483

読者が動く

読者を動かす 中日新聞グループのリソース

中日新聞社は地域に密着した情報発信を通して、読者との間に確かな信頼を築いてきました。その信頼は、中日新聞社が持つ様々な機能やサービスにも強く影響を与えています。いずれも新聞広告にプラスαの大きな効果をもたらす地域最強のコンテンツです。ターゲットや目的に応じて、中日新聞社の多彩なコンテンツをご活用ください。

「食」を通したSDGsへの貢献 中日新聞食育プロジェクト 「いただきます!」スタート



今年、愛知県で「食育推進全国大会inあいち」が開催されることを受け、中日新聞では「食」について学び、広く伝えていく食育プロジェクトを立ち上げました。

大切ないのちをいただき、私たちが生かされている感謝の気持ちを表す「いただきます」と、食材を作り、運び、準備してくれるすべての方へありがとうの気持ちを伝える「ごちそうさま」。日本語にはこの「いただきます」と「ごちそうさま」という素敵な言葉があります。この言葉の意味を読者と一緒に学び、「食」の大切さを多くの人に知ってもらうため、紙面だけでなくWEBや食育出張授業、イベントなどを組み合わせたプロジェクトとしました。推進メンバーとして3人の専門家の先生方にも協力いただき、一緒にレシピを開発したり、紙面作りやイベントにも参加いただいたりしながら、読者に有益な情報を伝えていきます。

今回のプロジェクトは東京・名古屋のメンバーが協力し、連携して協賛を募った企画。今後も東西連携ならではの取り組みを行っていきます。

食育プロジェクトは
こちらから



名古屋本社 広告一部 大谷 朋子
橋本 真実
(現:東京本社広告三部) 仲家 祐未
東京本社 広告一部 佐野 秀平



中日新聞 2022年6月17日朝刊 15段



中日新聞 2022年7月19日朝刊 5段

毎月19日は
「食育の日」
7月のテーマ
「野菜を食べよう!」
1日350g



中日新聞 2022年7月9日朝刊

ミツカン創業の地、愛知県から全国へ!

「みんなのお酢活」プロジェクト



ミツカンの「みんなのお酢活」プロジェクトがスタートしました。健康にいいと言われているお酢をさまざまな方法で生活に取り入れ、楽しみながら健康になってもらうことを目的に、ミツカン創業の地である愛知県から全国に広がります。

愛知県や東海エリアに根差した飲食店や喫茶店とタイアップし、お酢メニューの開発やお酢ドリンクの提供等でお酢活体験を提供するほか、約100人の「お酢活サポーターズ」がSNSを中心に「お酢の楽しみ方」などを発信していきます。5月に行われたプロジェクト発表会では、中日ドラゴンズのマスコットキャラクター、ドアラが「お酢活サポーターズ」として出演。独特の立ち振る舞いにより会場が華やかになりました。

中日新聞としては、紙面・WEBの告知で協力。中日新聞Webでは、プロジェクト発表会の様子や協力喫茶店を紹介しています。

一日15mlを目安に摂取する「お酢活」。ぜひ、みなさんも始めてみて下さい。

東京本社 広告一部 佐野 秀平
ビジネス開発部 野本 将史

プロジェクト
発表会に
ドアラが
駆け付けました。

みんなの
お酢活プロジェクト



中日新聞 2022年5月22日朝刊 15段



中日新聞 2022年6月18日朝刊 生活面



愛知県一宮市の喫茶店「イグル」

みんなのお酢活プロジェクト
協力喫茶店の
「マスターのイチオシ料理」と
「お酢活用術」を紹介。



愛知といえば喫茶店!
愛知県内の喫茶店にも
ご協力をいただいています!

【読者の声】 ※一部抜粋

- 笑顔満載で元気の出る紙面。笑顔や信頼感は何回みても楽しく何物にも勝る表現です。食酢の効果を再認識できる広告と言えます。(男性30代)
- ミツカンは地元の大手企業なので応援したい。(男性40代)
- お酢の効果を前面に出すだけでなく、皆さんそれぞれが日常に取り入れているところに好感が持てます。カラーも優しく、温かい気持ちになれる、良い広告だと思います。(女性40代)
- 笑顔の素敵ないろんな人たちの写真が目にとまり、紙面の真ん中にシンプルに「みんなのお酢活」という文字がかわいくて好感がもてる広告。(女性60代)

新聞広告共同流通プラットフォーム
J-MONITOR

2022 MARKET IN

— 東海のナンバーワン & オンリーワン —

電気自動車等の補助金交付台数は愛知県が全国一 自動車保有台数も愛知県が全国一と車社会を象徴

東海エリアの電気自動車等の補助金交付台数

環境への意識の高まりとともに、ここ数年普及が進む電気自動車等の次世代自動車。愛知県は自動車保有台数では全国一を誇るが、(一社)次世代自動車振興センターの統計によれば、電気自動車等の補助金交付台数においても愛知県は全国1位の26,308台となっている。東海エリア各県を見ても、静岡県が9位の10,116台、岐阜県が7,529台の10位と、上位10位までに3県が入っており、東海エリアは電気自動車等、次世代自動車普及の先進エリアとも言えよう。

愛知県の電気自動車等の補助金交付台数の割合をタイプ別に見ると、EV(電気自動車)が43.1%(全国53.3%)、PHV(プラグインハイブリッド自動車)が50.2%(全国42.8%)、FCV(燃料電池自動車)が4.6%(全国1.5%)、原付EVが2.1%(全国2.4%)となっている。全国と比べると、PHVとFCVの割合が高くなっているのが特徴である。

愛知県の自動車保有台数は22年連続全国一

一方、都道府県別の自動車保有台数は、(一財)自動車検査登録情報協会の発表資料によれば、愛知県が全国1位の約532万台となっている。2000年までは東京都が全国1位であったが、2001年に東京都が約462万台であったのに対し、愛知県が約468万台となり、それ以降22年間愛知県が全国1位を維持している。2001年から2022年への台数の変化状況を見ると、東京都が約21万台減少(95.5%)したのに対し、愛知県は約64万台

増加(113.7%)となっており、愛知県の増加率が際立つ。愛知県の車種別の自動車保有台数については、乗用車が79.1%(全国75.3%)、貨物車14.7%(全国17.6%)等となっており、全国と比べると乗用車率が高いのが特徴となっている。

愛知県以外の東海エリアの各県の自動車保有台数を見ると、静岡県が約291万台と全国9位となっているほか、岐阜県が約169万台で全国18位、三重県が約153万台の21位となっている。東海エリア4県の合計では、約1,144万台で全国シェア率は13.9%と、ここ数年シェア率の変化はない。2018年と直近年の2022年を比較した増加率では、全国が1.005倍に対し、東海エリア全体では1.009倍と全国の増加率を上回っている。また、人口千人当たりの台数を見ると、全国が655台に対し、愛知県は708台、岐阜県が860台、三重県が869台、静岡県が805台といずれも全国平均を大きく上回っている点からも東海エリアが車社会であることを裏付ける。

田中 三文

たなか みつふみ

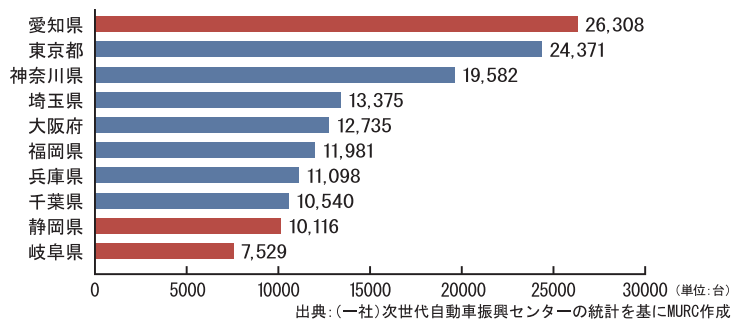
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

政策研究事業本部

上席主任研究員



都道府県別補助金交付状況 電気自動車等(2009~2020年度)



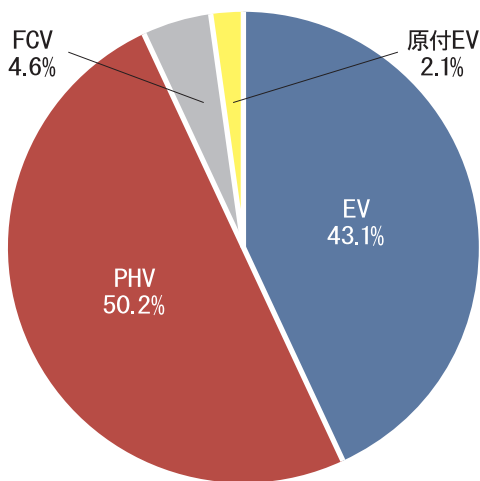
県別・自動車保有台数

(単位：台、各年ともに3月末現在)

県名/年	2018	2019	2020	2021	2022	2022/2018
愛知県	5,251,743	5,282,965	5,298,564	5,313,538	5,322,042	1.013
岐阜県	1,682,941	1,687,667	1,686,858	1,688,217	1,686,191	1.002
三重県	1,516,003	1,521,312	1,522,694	1,526,418	1,526,372	1.007
静岡県	2,885,520	2,893,838	2,896,198	2,904,876	2,906,073	1.007
東海エリア計	11,336,207	11,385,782	11,404,314	11,433,049	11,440,678	1.009
全国計	81,789,318	81,789,318	81,849,782	82,077,752	82,174,944	1.005
東海/全国	13.9%	13.9%	13.9%	13.9%	13.9%	—

出典：(一財)自動車検査登録情報協会の統計を基にMURC作成

愛知県の補助金交付状況 電気自動車等(タイプ別割合)



出典：(一社)次世代自動車振興センターの統計を基にMURC作成

探訪記

東海エリア



文・写真／増田 幸弘(編集者)

[三重県]



病気をしたりすると、地域の足としての公共交通機関の大切さに気づく。写真は三岐鉄道。

地域の足としてのローカル線

旅行をしたり、出張するとき、時刻表を見ていたのはいつのころまでだったろうか。スマホのアプリで簡単に調べられるようになってから手にすることもまずなくなったが、昭和の時代にはぶ厚い時刻表が一家に一冊はあり、切符売り場にも備え付けられていた。ダイヤグラムと呼ばれる運行図を読み解き、計画をたてたのである。「ダイヤ改正」などという言葉はそこからくるのだが、「ダイヤ」がなにを意味するのか、いまではピンとこない人も少なくないだろう。

どうすれば安く行けるのか、最短距離で行けるのか、あるいは途中で寄り道をするにはどうすればよいのかなど、いまではアプリがすぐに教えてくれることも、自分で調べ、考えなくてはならなかった。ちょっとした頭の体操にもなり、松本清張はそうして『点と線』のトリックを思いついたと言われる。日本交通公社(現JTB)の発行する『旅』という雑誌の1957年(昭和32)2月号から翌58年1月号まで、1年をかけて掲載された推理小説である。意外なことに連載当初は反響があまりなかったものの、完結後に単行本にまとめられると人気を博して映画化され、松本清張ブームを引き起こした。

ベストセラーの背景に、それだけ鉄道が身近な存在だったことがある。時刻表には全国に張り巡らされた鉄道網が誇らしげに掲げられていた。中学や高校を卒業してすぐに就職する若者は「金の卵」と呼ばれ、全国各地から「集団就職列車」で上京し、高度経済成長を支えたのである。しかし、モータリゼーションの発展で「使命を終えた」として、80年代には一転、「赤字ローカル線」が社会問題となる。

三重を回るにあたり、意識して電車で移動した。運転するのは神経を使い、事故のリスクもあるのに、目的地が駅から離れているとか、乗り換えの接続がよくないなどといった理由から、車のほうが効率的で楽だと思い込み、つい車にしようからだ。運転免許を取得してからずっとそうだったし、とくに子どもが小さかったころは車以外は考えられなかった。

とはいえひとつの県を公共交通機関だけで移動するのは、なかなかたいへんなことである。三重の前に取材した岐阜県では、全域を車で回った。鉄道やバスでもできないのかもしれないが、山がちなのもあり、効率はかなり悪いだろう。東京でさえ西部の奥多摩エリアは深い山並みに囲まれる。

意外なことに、三重県は公共交通機関がずいぶん発達していて、JRと近鉄が幹線として名古屋と大阪方面を結ぶほか、伊勢鉄道、三岐鉄道、伊賀鉄道、養老鉄道、四日市あすなろ鉄道が地域をめぐり。駅まで迎えにきてもらったり、アポの時間と接続の問題からタクシーで長距離移動したこともあったが、それでも熊野と志摩半島以外は公共交通機関で回れた。

これは実はすごいことなのかもしれないと思ったら、本当にすごい歴史があった。伊勢鉄道は赤字ローカル線と指定されたことで国鉄から第3セクターになったものだし、伊賀鉄道にしても近鉄の路線を公有民営方式で継続している。地域の足を絶やさないため、努力と工夫が重ねられてきたのである。

国鉄民営化から35年が過ぎた2022年、JR西日本は関西線の亀山(三重県亀山市)・加茂(京都府木津川市)間を赤字路線として公表した。名古屋と近畿を結ぶ幹線だっただけに驚きの声も上がったが、その行方を見守りたい。



三岐鉄道の切符は昔懐かしい硬券で、鉄を入れる。電車に乗ること自体が特別な体験に思えてくる。

AD BALLOON

01 東京新聞朝刊 | 女流棋士・加藤桃子さんが第6局開催地の牧之原市の魅力をPR 「お〜いお茶杯第63期王位戦」開幕特集&静岡県牧之原市特集

〈東京本社 広告一部 甲地 正幸〉

6月28日から始まった「お〜いお茶杯第63期王位戦」(特別協賛・伊藤園)。第6局の開催地として静岡県牧之原市が選ばれました。王位戦は4勝した時点で王位が決まるため、戦況次第では第6局が開催されない可能性があります。第6局の運営を担当する東京新聞が牧之原市と一緒に開催に向けて準備を進める中で、まずは牧之原市について知ってもらう機会を増やそうと第1局終了のタイミングで観光PR広告を掲載。牧之原市を紹介するナビゲーターとして同市出身の女流棋士、加藤桃子清麗に登場していただきました。お茶の産地として有名な牧之原市ですが目の前に広がる海、富士山も眺めることができる風光明媚な土地としてもおすすめスポットが満載です。第6局の開催場所として注目されるであろう古利・平田寺も先駆けて紹介しています。将棋のまち「牧之原」の発展のため、市長、市職員、市民とともに東京新聞が運営・PRと支援していきます。

第6局 開催地
静岡県牧之原市
平田寺



東京新聞 2022年6月30日朝刊 15段



東京新聞 2022年6月21日朝刊 30段

第1局 開催地
6月28日、29日
愛知県犬山市
ホテルインディコ犬山有楽苑

02 中日新聞(東海本社版)朝刊 | 吉田初三郎の鳥瞰図と昭和初期の写真 空から見た私たちの遠州

〈東海本社 広告部 春田 靖浩(現:東京本社広告二部)〉

大正から昭和初期にかけて活躍した鳥瞰図絵師、吉田初三郎が作成した1930年(昭和5年)の浜松とその周辺(といっても北海道から九州まで広く描かれています)の鳥瞰図を紹介する3ページの特集紙面を掲載しました。

見開きの2ページでは鳥瞰図を大きく掲載。3ページ目は鳥瞰図を元に作成した、輪郭のみの白地図を載せ、こどもが夏休みの課題として今の遠州の地図を描くことができるようにしました。さらに鳥瞰図のデータや昭和初期の写真を提供してもらっ

た浜松市立中央図書館にこの新聞を置いていただくことで、より多くの方の目に留まるようになりました。協賛各社には創業当時の写真もしくは絵をご手配いただき、90年以上前の地図や写真とともに掲載されることで歴史ある企業・団体のイメージを作りました。とある協賛社からは「つい見入ってしまう地図で楽しい」といった評価をいただきました。新聞が郷土愛を再認識する機会を提供できれば幸いです。

時代による
変化も
楽しめます

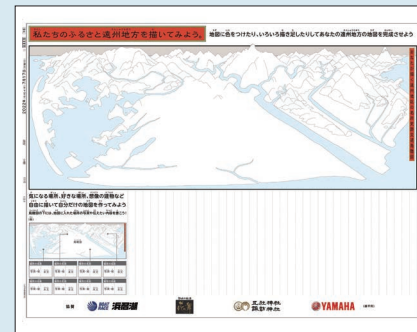


中日新聞(東海本社版) 2022年7月17日朝刊 30段

飛行隊
〈現在〉
航空自衛隊浜松基地

鉄道省浜松工場
〈現在〉
JR東海浜松工場

夏休みの課題に
活用できる
自分で書き込める
白地図



中日新聞(東海本社版) 2022年7月17日朝刊 15段

吉田初三郎の鳥瞰図は富士山や東京など普通見えない場所まで地図に描く『遊び心』が特徴といわれています



「沖縄復帰50年企画」&「沖縄慰霊の日企画」出版広告特集

〈 東京本社 出版・エンタテインメント広告部 内藤 傳十郎 〉

今年は沖縄が日本に復帰して50年という節目の特別な年。「沖縄復帰の日」(5月15日)と沖縄戦終結の日「沖縄慰霊の日」(6月23日)の両日ともに、出版広告特集を企画し、琉球新報・沖縄タイムス・東京新聞で併載、沖縄県内と都内書店にてブックフェアを開催いたしました。

NHK連続テレビ小説「ちむどんどん」で沖縄が取り上げられるなど、沖縄復帰50年のニュースを目にした方も多いかと思います。

沖縄復帰の日



東京新聞 2022年5月15日朝刊 1面 3段

2022年5月15日、米軍統治下の沖縄が日本に復帰して50年を迎えました。復帰後の沖縄は観光立県となり、経済や社会環境は大きく変化してきましたが、一方で、戦後から続く米軍基地問題や経済の自立など、未だに課題は多く残っています。

一方で、終戦の日8月15日は認識されていますが、「沖縄慰霊の日」を知らない方は少なくありません。

昨今のコロナ禍とウクライナ情勢で、平和に日々の生活を過ごせる幸せについて、世界中の人々が気付かされました。東京新聞は本企画を通して、沖縄県民の皆さんに寄り添い、戦争や平和について考えて頂きたいと思い実施しました。ご協力頂きました出版社、書店、広告会社の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

沖縄慰霊の日

6月23日は沖縄戦終結の日。20万人余の尊い命が奪われた沖縄戦から77年が経ちました。沖縄では「慰霊の日」と定めており、全県民が戦没者の霊を慰め、世代を超えて恒久平和を願う特別な日です。



東京新聞 2022年6月22日、23日朝刊 1面 3段



東京新聞 2022年6月23日夕刊 10段



東京新聞 2022年6月23日夕刊



東京と沖縄の書店でブックフェアを開催

オープンキャンパス企画

〈 名古屋本社 広告三部 三重アドセンター 松浦 光紀 〉

昨年まで、三重版においては、「看護師になろう企画」「専門学校企画」「大学・短大オープンキャンパス企画」と3つの学校を紹介する企画(計51段)を、行っていました。どの企画においても昨年からボリューム増を狙う中、この3つの企画を合わせて行うことにより、高校生をターゲットにする広告商品としての価値が高まるのではないかと考え今年は、センター版4ページ計60段の「オープンキャンパス企画」とまとめて実施しました。

さらに、同4ページの紙質を変えて増刷し、三重県内全ての高

校(約70校)に100部ずつ郵送にて配布を行い、新聞読者以外にも普及を図りました。

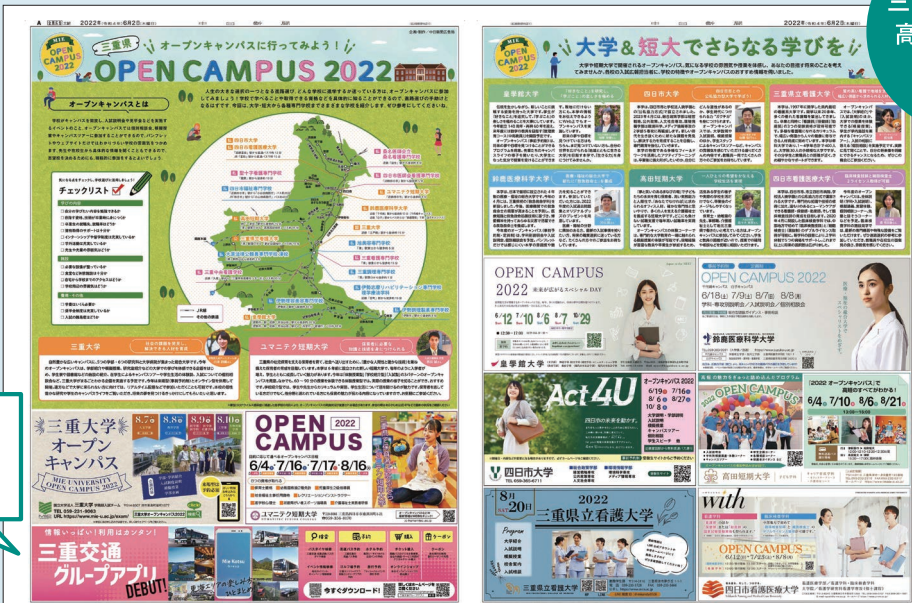
結果として、三重大学・ユニテック短期大学などの学校のみならず、三重交通など昨年まで獲得できていなかった学校以外の新規広告主の獲得にもいたりしました。

今回広告の枠組みを見直すことが、ボリューム増の大きな要因となったように既存の企画であってもより広告主に価値を感じてもらえるよう今後も企画立案していきます。

増刷を
三重県内全ての
高校約70校に
100部ずつ
配布

学校以外の新規
広告主からも出稿

増刷表面



中日新聞(三重版) 2022年6月2日朝刊 60段 センター4ページ特集

増刷裏面

01 読みたいくなる紙面と話題づくり、媒体価値向上を目指して。 地域と生活の情報紙「東京新聞TODAY」をリニューアル

東京本社 広告三部 松本 祐佳（東京新聞TODAY編集長）

神奈川県川崎市でタブロイド紙「東京新聞TODAY」（1989年創刊）を発行しています。広告局が発行するフリーペーパーとして唯一の存在です。今春、リニューアルをしました。今も、刷新が済んだとは思っていないのですが、いったん記します。

読み物として手に取りたいものかどうか。新聞とも、市政便りとも違う情報を届けられているか。時勢を捉えているか。見た目も改良して見やすくしました。

「かわさきツナガリ」と題した川崎出身の著名人インタビューは、

新しいTODAYの看板企画です。EXILEの松本利夫さんからスタート。俳優の市原隼人さんも登場しました。市原さんは主演映画のPRを兼ねており、その映画の上映が地元川崎で予定がなかったことから、東京新聞TODAY特別上映会を開催することに決めました。東京新聞のファンづくりも意識しています。

刷新、収益改善は道半ばです。一つずつより良く。その先にあるのは、収益V字回復だと信じています。川崎におけるコミュニケーションにぜひ当媒体をご活用ください。



東京新聞TODAY 2022年5月27日



東京新聞TODAY 2022年7月1日

川崎出身の著名人インタビュー「かわさきツナガリ」市原隼人さん

市原隼人さんの地元川崎で主演映画の特別上映会を開催



市原隼人さん主演映画「おいしい給食」特別上映会を地元川崎で初開催！

「かわさきツナガリ」川崎市市民文化大使のEXILE MATSUこと松本利夫さん



WEBサイトはこちら→

ナゴヤ愛はどこにある？

第9回 バスケと豊川に愛を込めて

ZIP-FMの人気DJ「コバタク」こと小林拓一郎さんが2020年8月に地元・豊川市にOpenしたグレーパークコート（以下グレーパー）。併設されたカフェの開店時のみ、誰でも自由にバスケットボール（バスケ）を楽しめるよう、無料開放されています。

名前の由来は、小林さんの実家の葡萄畑だった場所だから。コートを作った理由は、バスケと豊川に恩返しがしたかったからだと言います。「今の僕があるのは、全部バスケのおかげなんです」と話す小林さん。

小学時代は勉強も運動も苦手な、本人曰く「ダメな子」でしたが、バスケを始めたことでミラクルが起こります。中1の時には、バスケのゴールを庭に作ってもらうことを両親に交渉し、学

年50位の成績を目指し猛勉強。結果は60位でしたが、自信がついた小林さんは、それを機に成績がぐんぐん上がり、高校は進学校に入学します。

大学時代はバスケ選手を目指し、米国オレゴン州コーバリスに留学。大学にラジオ局があると聞き、学生DJに応募したことが次の転機に。それまでバスケにしか興味がなく、ラジオを聴いたこともなかった小林さんでしたが、DJは天職となったのです。選手になる夢は叶いませ

でしたが、バスケがなかったら、留学することもDJになることもなく、確かに今の小林さんはいなかったでしょう。

大好きなバスケと自分を育ててくれた豊川のまちに恩返しをしたい、次第にそんな想いが募るようになっていきます。米国では普通に街中で見かけるバスケゴール。日本では、まず見かけません。子どもたちにもっとバスケを好きになって欲しい、バスケのすそ野を広げたい、それが小林さんの次の目標となりました。

紆余曲折あって、後継者のいない葡萄畑にバスケコートを作ることを決めます。潤沢な資金があるわけではないため、葡萄棚の200本もの柱を自分たちで抜く経過をSNSに上げていると、手伝ってくれる人が30人以上に膨れ上がりました。「豊川のためならぜひ応援したい」と、地元の造園業や舗装工事などの会社も協力を申し出て、現在もスポンサーとして



▲ZIP-FMのDJ・18年目の小林さん



▲グレーパー全景。左手建物がカフェ



サポートし続けてくれています。念願のバスケコートが完成。自分ひとりでは決して叶うことのなかった夢。みんなで叶えたからこそ価値がある、と小林さん。

グレーパーではプロの選手を招くこともありますが、あえてバスケとは関係ないイベントを行っています。バスケに興味ない人に興味を持つきっかけになって欲しいから。もちろん、子どもたちがカッコイイ選手に憧れて、バスケ選手を目指すようになって欲しいとも願います。小林さんの次の夢は、グレーパーから出たバスケ選手のアナウンスをすることなのだそうです。

取材当日は小林さんの親友・MASHさんのライブを開催。会場の人たちの一体感で、熱い夜となりました。MASHさんのやさしい歌声が心にしみ、筆者も思わず涙。

グレーパーはこの先、伸びゆく葡萄の蔓のように、ますます愛される場所になるでしょう。ひとりでは難しくても、みんなで叶えられる夢が見られる場所だから。



▲名古屋の人気店から豊川へ移住した、店長の大内さんの珈琲も自慢のひとつ

（写真撮影：宮田雄平）



イラストレーター＆文筆家＆漫画家 陽菜 ひよ子 Hina Hiyoko

愛知県清須市生まれ。3歳より名古屋市在住。関西に2年、関東に14年住んだのちUターン。2006年『やさしい写仏めり絵帖』（ダイヤモンド社）、2015年『アトピーの夫と暮らしています』（PHP研究所）を出版。イラスト実績はNHKテレビ番組・書籍・広告・新聞小説・自治体・イラスト講師など多数。



好評発売中！『ナゴヤ愛 地元民も知らないスゴイ魅力』（秀和システム）

中日新聞・東京新聞 新聞広告受付締切スケジュール

広告原稿の入稿サイズにつきましてはホームページ内の「中日新聞グループPDF広告制作ガイド」をご確認ください。

締切	10月分	11月分	12月分
第1次 前々月 20日	8/19（金）	9/20（火）	10/20（木）
第2次 前月 10日	9/9（金）	10/7（金）	11/10（木）
第3次 前月 20日	9/20（火）	10/20（木）	11/18（金）
特定面 前月 5日	9/5（月）	10/5（水）	11/4（金）

※当該日が土日祝の場合は繰り上げた営業日となります。